

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 |
|------------------|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|
| 数理・データサイエンス・AI基礎 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 数理・データサイエンス・AI応用 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 選択項目 | 授業科目 | 選択項目 |
|------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 数理・データサイエンス・AI基礎 | 4-3データ構造とプログラミング基礎 | 数理・データサイエンス・AI応用 | 4-9データ活用実践(教師なし学習) |
| 数理・データサイエンス・AI基礎 | 4-7データハンドリング | | |
| 数理・データサイエンス・AI基礎 | 4-8データ活用実践(教師あり学習) | | |
| 数理・データサイエンス・AI基礎 | 4-9データ活用実践(教師なし学習) | | |
| 数理・データサイエンス・AI応用 | 4-3データ構造とプログラミング基礎 | | |
| 数理・データサイエンス・AI応用 | 4-7データハンドリング | | |
| 数理・データサイエンス・AI応用 | 4-8データ活用実践(教師あり学習) | | |

⑩ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素 | 講義内容 |
|---|--|
| (1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている | 1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「数理・データサイエンス・AI基礎」(第1回、第2回、第3回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「数理・データサイエンス・AI基礎」(第1回、第5回) ・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2回、第3回) |
| | 1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第1回、第5回) |
| (2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの | 1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「数理・データサイエンス・AI基礎」(第3回、第6回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「数理・データサイエンス・AI基礎」(第3回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回) ・データ作成(ビッグデータとアナレーション)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回) ・データのオープン化(オープンデータ)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回) |
| | 1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第3回、第4回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「数理・データサイエンス・AI基礎」(第3回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「数理・データサイエンス・AI基礎」(第3回) |
| (3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの | 1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「数理・データサイエンス・AI基礎」(第1回、第5回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「数理・データサイエンス・AI基礎」(第1回、第5回、第10回) |
| | 1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「数理・データサイエンス・AI基礎」(第3回、第4回) |

| | | |
|---|-----|---|
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする | 3-1 | <ul style="list-style-type: none"> • ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2回、第7回、第8回) • 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「数理・データサイエンス・AI基礎」(第7回、第8回) • データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「数理・データサイエンス・AI基礎」(第7回、第8回) • AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2回、第7回、第8回) • データバイアス、アルゴリズムバイアス「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2回、第7回、第8回) • データ・AI活用における負の事例紹介「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2回、第7回、第8回) |
| | 3-2 | <ul style="list-style-type: none"> • 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回) • 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回、第9回) • 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「数理・データサイエンス・AI基礎」(第9回) |
| (5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの | 2-1 | <ul style="list-style-type: none"> • データの種類(量的変数、質的変数)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回) • データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回、第9回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第2回) • 代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回、第9回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第2回) • データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回、第9回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第3回、第4回、第5回) • 相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「数理・データサイエンス・AI応用」(第5回) • 母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「数理・データサイエンス・AI応用」(第1回) |
| | 2-2 | <ul style="list-style-type: none"> • データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第5回、第6回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第3回) • データの図表表現(チャート化)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第5回、第6回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第5回) • 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6回、第9回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第5回) |
| | 2-3 | <ul style="list-style-type: none"> • データの集計(和、平均)「数理・データサイエンス・AI応用」(第2回) • データの並び替え、ランキング「数理・データサイエンス・AI応用」(第2回、第3回) • データ解析ツール(スプレッドシート)「数理・データサイエンス・AI応用」(第4回、第5回、第6回) • 表形式のデータ(csv)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第12回)「数理・データサイエンス・AI応用」(第5回) |

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

| |
|---|
| 本科目の到達目標は、 (1) 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。 (2) 学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること、である。 |
|---|

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

| 講義内容 |
|------|
| 該当なし |

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

| 学部・学科名称 | 学生数 | 入学定員 | 収容定員 | 令和5年度 | | 令和4年度 | | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 履修者数合計 | 履修率 |
|-------------|-------|------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|--------|------|--------|---------|
| | | | | 履修者数 | 修了者数 | 履修者数 | 修了者数 | | |
| 社会科学部 | 501 | 182 | 684 | 22 | 0 | 3 | 0 | | | | | | | | | 25 | 4% |
| 保健医療福祉学部 | 315 | 150 | 580 | 12 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | 12 | 2% |
| 心理学部 | 154 | 40 | 200 | 7 | 0 | 1 | 0 | | | | | | | | | 8 | 4% |
| 農学部 | 220 | 92 | 364 | 47 | 6 | 12 | 0 | | | | | | | | | 59 | 16% |
| 外国語学部 | 178 | 50 | 200 | 2 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | 2 | 1% |
| アニメーション文化学部 | 116 | 40 | 160 | 10 | 0 | 3 | 0 | | | | | | | | | 13 | 8% |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| 合計 | 1,484 | 554 | 2,188 | 100 | 6 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 119 | 5% |

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

情報教育部会は、全学教養教育委員会の下に設置され、吉備国際大学における教養教育(情報教育)の編成や教育内容、教育方法の向上や改善などについて審議を行い、教員の情報教育力や学生の学修力の向上を目的としている。数理・データサイエンス・AI教育においては、同プログラムの編成や運営、履修者数の向上に関することについても審議している。

⑦ 具体的な構成員

情報教育部会 部会長 外国語学部 教授 佐藤 匡
 情報教育部会 副部会長 アニメーション文化学部 准教授 大谷 卓史
 社会科学部 講師 竹岡 志朗
 社会科学部 准教授 天岡 寛
 保健医療福祉学部 准教授 安福 真弓
 保健医療福祉学部 准教授 元田 弘敏
 保健医療福祉学部 教授 樋口 博之
 保健医療福祉学部 准教授 狩長 弘親
 心理学部 講師 村上 勝典
 心理学部 准教授 秀 真一郎
 農学部 教授 桧原 健一郎
 農学部 講師 林 将也
 外国語学部 教授 高木 秀明
 アニメーション文化学部 講師 今村 俊介
 教務部長 溝井 智子

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

| | | | | | |
|---------|-----|---------|------|---------|-------|
| 令和5年度実績 | 5% | 令和6年度予定 | 20% | 令和7年度予定 | 40% |
| 令和8年度予定 | 60% | 令和9年度予定 | 100% | 収容定員(名) | 2,188 |

具体的な計画

上記の目標を実現するために、本プログラムについてオリエンテーション等でより一層の周知を図るとともに本プログラムの目的と意義について説明し、学生自身が目標を持って履修するよう指導する。また、本プログラムを構成する2つの科目について、学生をTAなどの教育サポートスタッフとして活用するなど履修生が学びやすい環境づくりを行うとともに、令和8年度までに必修化を行い、令和9年度に100%を目指す予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは全学部学科の学生が履修できるものとなっている。また、このプログラムを構成する2つの科目「数理・データサイエンス・AI基礎」(1年次秋学期配当、2単位)では複数のクラスを設けており、学生の履修機会を確保している。また「数理・データサイエンス・AI応用(オンライン)」(2年次春学期配当、2単位)においても、令和6年度の授業から複数のクラスを設けている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「数理・データサイエンス・AI受講のすすめ」といった資料を作成し、春学期・秋学期の初めにしている学科別オリエンテーションの際に全学生へ配布するとともに、プログラムの詳細な説明を行うことで履修を促している。また、学科指導やチューターとの面談で履修指導を行っており、本プログラムを履修するよう指導する。さらに、基礎的な情報リテラシーを涵養する授業である「情報活用」や、「数理・データサイエンス・AI基礎」の授業において、現代社会における統計学やデータサイエンスの重要性や社会的に注目の高いAIについて、その社会や生活への影響を解説して学生の意識を喚起するとともに、本学のプログラムを説明し受講を促す。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

令和8年度までに「数理・データサイエンス・AI基礎」および「数理・データサイエンス・AI応用」を必修科目とすることで、学生全員が履修する体制の整備を目指している。

本学では、学生と教職員が学務支援システムUniversalPassportおよび、学内グループウェアMicrosoftTeamsを使用して直接コミュニケーション・連絡できる体制を構築している。新入生オリエンテーションにおいては、これらの学内システムの説明を行うとともに、UniversalPassportを通じて、「数理・データサイエンス・AI基礎」および「数理・データサイエンス・AI応用」のシラバスの閲覧・授業履修登録が支障なくできるよう教務課および学科教員が連携して、指導を行っている。また、新入生を含む学生がこれらのシステムを自力で支障なく活用できるよう、情報教育センターおよび教務課、情報システム課が協力し、学内システムの利用法を解説する「ICT活用ガイドブック」を作成したうえで、毎年改訂し、上記のUniversalPassportで公開している。上記ガイドブックのメンテナンス・更新作業を容易に行えるよう、現在はWordPressによるブログ化に取り組んでいる。学生の上記システムの利用における質問・問い合わせは、情報教育センター教員が受け付け、必要に応じて、学生に対して情報システム課および教務課のサポートを案内している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では、教職員と学生が学内グループウェアMicrosoftTeamsおよび、学務支援システムUniversalPassportを使用して直接コミュニケーション・連絡できる体制を構築している。授業内においては、これらのコミュニケーションツールを活用して、教員は授業資料や課題を学生に対して提供できる。また、授業内外において、これらのコミュニケーションツールを活用し、受講学生に対して個別的な学習指導を行うとともに、個々の学生からの質問も直接受け付けている。情報教育センターおよび情報システム課、教務課の協力のもと、上記のサポート体制を通じて、このしくみを実効的に機能するよう対応している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

| | |
|--|---|
| 自己点検・自己評価委員会 | |
| (責任者名) 栗田 喜勝 | (役職名) 委員長 |

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---------------------------|---|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | <p>本学では同プログラムは令和4年度より実施しており、学生のプログラム履修・修得状況については、全学教養教育委員会情報教育部会において点検・分析・改善を行い、全学的な履修者数・履修率の向上を図っている。令和4年度は「数理・データサイエンス・AI基礎」が19名と少なかったことから、資料を作成し、学科別オリエンテーションにおいて科目の必要性等の説明を行ったことにより、令和5年度は92名に増加している。</p> |
| 学修成果 | <p>本プログラムを構成する「数理・データサイエンス・AI基礎」および「数理・データサイエンス・AI応用」の単位修得状況を見ると、いずれの科目も70%以上の履修者が5段階評価の4以上を取得しており、学生が内容を理解していたと考えられる。また、授業終了後に授業アンケートを実施しており、回答結果を分析し学修成果を把握している。</p> |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | <p>「数理・データサイエンス・AI基礎」「数理・データサイエンス・AI応用」では授業アンケートを実施している。この結果を通じて授業内容の理解度や学習内容に対する学生の意見を収集し、教育内容の改善を図っている。「数理・データサイエンス・AI基礎」では、「授業内容を分かりやすく説明していた」および「学生の理解に合わせた授業をしていた」といった項目において、約90%の学生が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答している。「数理・データサイエンス・AI応用」では、Microsoft Teamsのチームの「会議」機能を活用し、各回の授業終了後、学生の授業の理解度（主観的パーセンテージによる回答を求めている）の確認と感想を集約しており、受講者はおおむね理解度が70-80%であると回答している。</p> |
| 学生アンケート等を通じた後輩等其他の学生への推奨度 | <p>授業アンケートの結果において、「授業の内容は興味や関心が持てるものだった」という項目に対して、90%以上の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、後輩学生に対しての推奨といった面においても肯定的な意見が期待できる。</p> |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|--|
| <p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p> | <p>本プログラムを構成する2つの科目については、TAを活用するなどして令和8年度までにカリキュラム変更を行い、必修化を目指している。 令和5年度においては履修者数、履修率の向上を図るため、オリエンテーションにおける本教育プログラムの学生への周知、学生が事前に詳細な学修内容を知る機会の提供、複数の曜日時限のクラスを設ける等、学生が受講しやすい授業環境の整備、LMS(ユニバーサルパスポート)を利用した学生の自主学習環境の整備、授業時間内外における学生指導・質問への対応体制の整備等を行った。</p> |
| <p>学外からの視点</p> | <p>令和4年度の入学生より開始したプログラムであるため、令和8年度以降に実施する卒業時のアンケート、ならびに卒業から1、2年後に実施する就職先へのアンケートにより、修了者の活躍状況および企業評価等の把握を行う。</p> |
| <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> | <p>自己点検・自己評価委員会において、地元の高等学校、教育委員会や産業界から地元の企業の方を呼び、意見を聞いている。外部評価者からの意見を含めた自己点検・評価の結果を踏まえて、今後、地元の高等学校や教育委員会、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を反映した改善が随時行われていく予定である。</p> |
| <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p> | <p>令和6年度秋学期からは本学の学内コンビニエンスストアに弁当を納入する設置法人（順正学園）関連企業に依頼し、弁当の納入・販売実績に関するデータ提供を受け、身近なビジネスに関する実データを使って「データを説明する」「データを扱う」学修ができる体制を整備する。また、データサイエンスやAIにかかわる公共放送（NHK）の番組のインターネット配信につき、権利者の利益を不当に害しない範囲で利用する。データサイエンスやAIの最新技術やその応用について学生にわかりやすく、視聴覚に訴求する形で情報提供を行う。なお、本学の設置法人である順正学園は、SARTRASに対して授業目的公衆送信補償金を支払っており、下記のNHKの説明からこのような利用が可能と判断している。 https://www.nhk.or.jp/nijiryoyou/kyouiku.html</p> |
| <p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること</p> | <p>令和6年度秋学期からは本学の学内コンビニエンスストアに弁当を納入する設置法人（順正学園）関連企業に依頼し、弁当の納入・販売実績に関するデータ提供を受け、身近なビジネスに関する実データを使って「データを説明する」「データを扱う」学修ができる体制を整備する。また、データサイエンスやAIにかかわる公共放送（NHK）の番組のインターネット配信につき、権利者の利益を不当に害しない範囲で利用する。データサイエンスやAIの最新技術やその応用について学生にわかりやすく、視聴覚に訴求する形で情報提供を行う。なお、本学の設置法人である順正学園は、SARTRASに対して授業目的公衆送信補償金を支払っており、下記のNHKの説明からこのような利用が可能と判断している。 https://www.nhk.or.jp/nijiryoyou/kyouiku.html</p> |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>本学教育へ反映させることを狙いとして、卒業生の就職先へのヒアリングにより、本学の教育に期待することや産業界で求められている資質・能力、本学卒業生に対する満足度等の情報収集を行い、企業との教育コンテンツの共同開発等を通じて、産業界からのニーズの把握に取り組んでいる。また、定期的に「数理・データサイエンス・AI基礎」および「数理・データサイエンス・AI応用」の教員が気軽に会話できる雰囲気（「座談会」と称している）を行い、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とするため、それぞれの授業の取り組みや、数理・データサイエンス・AIにかかわる最近の技術発展や社会・経済の変化について情報・意見交換を行っている。</p> |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|-----------|------------------------|-------------|------------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI基礎 | | | 担当者 | 佐藤 匡 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 1年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学 部 理学1年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療 福祉学部 作業1年／2022～2023年度 吉備国際大学 社 会科学部 経営社会1年／2022～2023年度 吉備国際大 学 社会科学部 スポ社1年／2022～2023年度 吉備国際 大学 アニメ文化 アニメ文化1年 | | | ナンバリング | GE-AI-1-010 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 1年 | 開講期 | 2023年度秋学期 | | | 曜日・時限 | 金曜4限 |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと 論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケー ション・表現力 | |
| DP5. グローバルな 視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | 4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう  | | | | | | |
| 到達目標 | 政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものであり、それがテーマである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを、日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることができること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目） | | | | | | |
| 授業概要 | 社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | 実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。 | | | | | | |
| ルーブリック評価 | | | | | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ授業や与えられた課題について、採点され適宜アドバイスを受けることができる。 | | | | | | |
| | 指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|---------|--|
| 履修条件・注意事項 | <p>教科書とパソコンは、必ず初回の講義から持参すること。</p> <p>第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。</p> <p>授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。</p> | | |
| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | <p>担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。</p> |
| 事前学習・事後学習とその時間 | <p>各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。</p> <p>授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。</p> <p>予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。</p> | | |
| オフィスアワー | <p>春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目</p> <p>秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目</p> <p>予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。</p> | | |
| 授業計画 | | 担当者 | |
| 第1回 | オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー | | 佐藤 匡 |
| 第2回 | ビッグデータと社会の変化 | | 佐藤 匡 |
| 第3回 | 社会で活用されているデータ | | 佐藤 匡 |
| 第4回 | データ・AIの活用領域の広がり | | 佐藤 匡 |
| 第5回 | データ・AIの技術 | | 佐藤 匡 |
| 第6回 | データサイエンス | | 佐藤 匡 |
| 第7回 | データ・AIを活用するときの負の側面 | | 佐藤 匡 |
| 第8回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方） | | 佐藤 匡 |
| 第9回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例） | | 佐藤 匡 |
| 第10回 | AIとアルゴリズム | | 佐藤 匡 |
| 第11回 | データの構造とプログラミング | | 佐藤 匡 |
| 第12回 | データの利活用方法 | | 佐藤 匡 |
| 第13回 | 時系列データと文章データの分析例 | | 佐藤 匡 |
| 第14回 | 教師あり学習と教師なし学習 | | 佐藤 匡 |
| 第15回 | データ・AI利活用における留意事項 | | 佐藤 匡 |
| 第16回 | まとめと筆記試験・評価 | | 佐藤 匡 |
| 教科書 | | | |
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名1 | 技術評論社 |
| 教・著者名 | 岡嶋裕史・吉田雅裕 | 教・ISBN1 | 978-4-297-12038-2 |
| 教・書籍名 | | 教・出版社名2 | |
| 教・著者名2 | | 教・ISBN2 | |

| 参考書 | | | |
|--------|--|---------|--|
| 参・書籍名 | | 参・出版社名1 | |
| 参・著者名 | | 参・ISBN1 | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名2 | |
| 参・著者名2 | | 参・ISBN2 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|-----------|------------------------|-------------|------------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI基礎 | | | 担当者 | 大谷 卓史 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 1年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学 部 理学1年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療 福祉学部 作業1年／2022～2023年度 吉備国際大学 社 会科学部 経営社会1年／2022～2023年度 吉備国際大 学 社会科学部 スポ社1年／2022～2023年度 吉備国際 大学 アニメ文化 アニメ文化1年 | | | ナンバリング | GE-AI-1-010 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 1年 | 開講期 | 2023年度秋学期 | | | 曜日・時限 | 水曜5限 |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと 論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケー ション・表現力 | |
| DP5. グローバルな 視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | 4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう  | | | | | | |
| 到達目標 | 政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものであり、それがテーマである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを、日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることができること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目） | | | | | | |
| 授業概要 | 社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | 実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物20%、授業内容の理解度を問う試験の成績を50%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。 | | | | | | |
| ルーブリック評価 | | | | | | | |
| 課題や試験のフィード | 課題にコメントをつける。次回答え合わせをするなどの形で授業内でフィードバックする | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|-----------|------------------------|-------------|------------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI基礎 | | | 担当者 | 今村 俊介 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 1年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学 部 理学1年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療 福祉学部 作業1年／2022～2023年度 吉備国際大学 社 会科学部 経営社会1年／2022～2023年度 吉備国際大 学 社会科学部 スポ社1年／2022～2023年度 吉備国際 大学 アニメ文化 アニメ文化1年 | | | ナンバリング | GE-AI-1-010 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 1年 | 開講期 | 2023年度秋学期 | | | 曜日・時限 | 金曜4限 |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと 論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケー ション・表現力 | |
| DP5. グローバルな 視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | 4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう  | | | | | | |
| 到達目標 | 政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものであり、それがテーマである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを、日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることができること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目） | | | | | | |
| 授業概要 | 社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけて評価される。 また、課題等の提出物「50%」、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ている、アトが単位認定(到達目標)の判断基準となる。 | | | | | | |

| | | | |
|-----------------|---|----|---|
| | この講義の履修計画は、以下のとおりです。この計画は、履修の目安として参考にしてください。 | | |
| ループリック評価 | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 授業で作成したファイルは授業終了時にユニパへアップロードしてもらい、次回授業で確認ポイントを説明する。 | | |
| 履修条件・注意事項 | <p>【持参物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 <p>【授業計画】</p> <p>進捗の状況に応じて変更することがある。</p> | | |
| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | 担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。 |
| 事前学習・事後学習とその時間 | <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進捗と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。 | | |
| オフィスアワー | 14号館6階研究室にて火曜日3限に実施。 | | |
| 授業計画 | | | 担当者 |
| 第1回 | オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー | | 今村 |
| 第2回 | ビッグデータと社会の変化 | | 今村 |
| 第3回 | 社会で活用されているデータ | | 今村 |
| 第4回 | データ・AIの活用領域の広がり | | 今村 |
| 第5回 | データ・AIの技術 | | 今村 |
| 第6回 | データサイエンス | | 今村 |
| 第7回 | データ・AIを活用するときの負の側面 | | 今村 |
| 第8回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方） | | 今村 |
| 第9回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例） | | 今村 |
| 第10回 | AIとアルゴリズム | | 今村 |
| 第11回 | データの構造とプログラミング | | 今村 |
| 第12回 | データの利活用方法 | | 今村 |
| 第13回 | 時系列データと文章データの分析例 | | 今村 |
| 第14回 | 教師あり学習と教師なし学習 | | 今村 |
| 第15回 | データ・AI利活用における留意事項 | | 今村 |
| 第16回 | まとめと筆記試験・評価 | | 今村 |

| 教科書 | | | |
|--------|--------------|---------|-------------------|
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名1 | 技術評論社 |
| 教・著者名 | 岡嶋裕史, 吉田雅裕 著 | 教・ISBN1 | 978-4-297-12038-2 |
| 教・書籍名 | | 教・出版社名2 | |
| 教・著者名2 | | 教・ISBN2 | |
| 参考書 | | | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名1 | |
| 参・著者名 | | 参・ISBN1 | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名2 | |
| 参・著者名2 | | 参・ISBN2 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|-----------|------------------------|------------------|------------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI基礎 | | | 担当者 | 林 将也、米澤 孝康、山室 達也 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 農学 地域創成1年／ 2022年度 吉備国際大学 農学 醸造1年／2023年度 吉備 国際大学 農学 海洋水産1年 | | | ナンバリング | GE-AI-1-010 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 1年 | 開講期 | 2023年度秋学期 | | 曜日・時限 | 火曜3限 | |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと 論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケー ション・表現力 | |
| DP5. グローバルな 視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | <p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>  | | | | | | |
| 到達目標 | <p>政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものであり、それがテーマである。</p> <p>到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを、日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることができること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。</p> <p>（数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目）</p> | | | | | | |
| 授業概要 | <p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。</p> <p>前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。</p> | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | 実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 授業内容の予習・復習を確認し評価する。 講義への積極的な参加態度が20%、課題等の提出が40%、試験の成績が40%で評価される。 | | | | | | |
| ルーブリック評価 | | | | | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 課題や試験は実施後に採点をして、配布物等として返却および/あるいは授業内でフィードバックする。 | | | | | | |
| 履修条件・注意事項 | <p>【持参物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定されたスペックの個人所有のノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められない ことがあるので十分注意すること。 <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗の状況に応じて変更することがある。 | | | | | | |

| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | 担当教員は、本科目を含めた情報系科目の講義担当経験を有しており、研究活動においてその知識・技術を活用している。 |
|----------------|--|---------|---|
| 事前学習・事後学習とその時間 | <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 ・実習内容を自身で繰り返し実施し、再現できるようにしておくこと。 ・さらに、学習内容・実習内容を元に、発展的に学習・運用できるように努めること。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。 | | |
| オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時間の直後 ・事前に学生と担当教員で相談して決めた時間帯 | | |
| 授業計画 | | | 担当者 |
| 第1回 | オリエンテーション、スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー | 林、米澤、山室 | |
| 第2回 | ビッグデータと社会の変化 | 林、米澤、山室 | |
| 第3回 | 社会で活用されているデータ | 林、米澤、山室 | |
| 第4回 | データ・AIの活用領域の広がり | 林、米澤、山室 | |
| 第5回 | データ・AIの技術 | 林、米澤、山室 | |
| 第6回 | データサイエンス | 林、米澤、山室 | |
| 第7回 | データ・AIを活用するときの負の側面 | 林、米澤、山室 | |
| 第8回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ(考え方) | 林、米澤、山室 | |
| 第9回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ(事例) | 林、米澤、山室 | |
| 第10回 | AIとアルゴリズム | 林、米澤、山室 | |
| 第11回 | データの構造とプログラミング | 林、米澤、山室 | |
| 第12回 | データの利活用方法 | 林、米澤、山室 | |
| 第13回 | 時系列データと文章データの分析例 | 林、米澤、山室 | |
| 第14回 | 教師あり学習と教師なし学習 | 林、米澤、山室 | |
| 第15回 | データ・AI利活用における留意事項 | 林、米澤、山室 | |
| 第16回 | まとめと試験・評価 | 林、米澤、山室 | |
| 教科書 | | | |
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名1 | 技術評論社 |
| 教・著者名 | 岡嶋裕史, 吉田雅裕 著 | 教・ISBN1 | 978-4-297-12038-2 |
| 教・書籍名 | | 教・出版社名2 | |
| 教・著者名2 | | 教・ISBN2 | |
| 参考書 | | | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名1 | |
| 参・著者名 | | 参・ISBN1 | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名2 | |
| 参・著者名2 | | 参・ISBN2 | |

| | | | | | | | |
|----------------------|--|------------|-----------|--------------------|-------------|--------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI基礎 | | | 担当者 | 佐藤 匡 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 外国語 外国1年 | | | ナンバリング | GE-AI-1-010 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 1年 | 開講期 | 2023年度秋学期 | | | 曜日・時限 | 月曜5限 |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケーション・表現力 | |
| DP5. グローバルな視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | <p>4. 質の高い教育をみんなに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>  | | | | | | |
| 到達目標 | <p>政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものであり、それがテーマである。</p> <p>到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを、日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることができること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。</p> <p>（数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目）</p> | | | | | | |
| 授業概要 | <p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。</p> <p>前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。</p> | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | 実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。 | | | | | | |
| ルーブリック評価 | | | | | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ授業や与えられた課題について、採点され適宜アドバイスを受けることができる。 | | | | | | |
| 履修条件・注意事項 | <p>指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。</p> <p>教科書とパソコンは、必ず初回の講義から持参すること。</p> <p>第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。</p> <p>授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。</p> | | | | | | |
| | 担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全 | | | | | | |

| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | 体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。 |
|----------------|--|---------|--|
| 事前学習・事後学習とその時間 | <p>各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。</p> <p>授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。</p> <p>予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。</p> | | |
| オフィスアワー | <p>春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目</p> <p>秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目</p> <p>予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。</p> | | |
| 授業計画 | | 担当者 | |
| 第1回 | オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー | 佐藤 匡 | |
| 第2回 | ビッグデータと社会の変化 | 佐藤 匡 | |
| 第3回 | 社会で活用されているデータ | 佐藤 匡 | |
| 第4回 | データ・AIの活用領域の広がり | 佐藤 匡 | |
| 第5回 | データ・AIの技術 | 佐藤 匡 | |
| 第6回 | データサイエンス | 佐藤 匡 | |
| 第7回 | データ・AIを活用するときの負の側面 | 佐藤 匡 | |
| 第8回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方） | 佐藤 匡 | |
| 第9回 | データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例） | 佐藤 匡 | |
| 第10回 | AIとアルゴリズム | 佐藤 匡 | |
| 第11回 | データの構造とプログラミング | 佐藤 匡 | |
| 第12回 | データの利活用方法 | 佐藤 匡 | |
| 第13回 | 時系列データと文章データの分析例 | 佐藤 匡 | |
| 第14回 | 教師あり学習と教師なし学習 | 佐藤 匡 | |
| 第15回 | データ・AI利活用における留意事項 | 佐藤 匡 | |
| 第16回 | まとめと筆記試験・評価 | 佐藤 匡 | |
| 教科書 | | | |
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名1 | 技術評論社 |
| 教・著者名 | 岡嶋裕史・吉田雅裕 | 教・ISBN1 | 978-4-297-12038-2 |
| 教・書籍名 | | 教・出版社名2 | |
| 教・著者名2 | | 教・ISBN2 | |
| 参考書 | | | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名1 | |
| 参・著者名 | | 参・ISBN1 | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名2 | |
| 参・著者名2 | | 参・ISBN2 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|-----------|------------------------|-------------|------------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI応用 | | | 担当者 | 吉長 裕司 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 2年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療福祉学 部 理学2年／2022～2023年度 吉備国際大学 保健医療 福祉学部 作業2年／2022～2023年度 吉備国際大学 社 会科学部 経営社会2年／2022～2023年度 吉備国際大 学 社会科学部 スポ社2年／2022～2023年度 吉備国際 大学 アニメ文化 アニメ文化2年 | | | ナンバリング | GE-AI-2-011 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 2年 | 開講期 | 2023年度春学期 | | | 曜日・時限 | 水曜2限 |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと 論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケー ション・表現力 | |
| DP5. グローバルな 視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | 4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう  | | | | | | |
| 到達目標 | <p>本科目の開講の背景は次の通りである。政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒／年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能なモデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本科目はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。</p> <p>本科目の到達目標は、(1) 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること、(2) 学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること、である。</p> <p>（出典：2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～」）</p> | | | | | | |
| 授業概要 | <p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、本科目では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を学ぶ。</p> <p>第1回～第7回の授業では、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの「2. データリテラシー」（統計）の中から、2-1) データを読む、2-2) データを説明する、を取り上げ、実データを分析しながら学習し、前半の課題レポートに取り組む。</p> <p>第8回～第15回の授業では、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの「4. オプション」の中から、4-3) データ構造とプログラミング基礎、4-7) データハンドリング、4-8) データ活用実践（教師あり学習）、4-9) データ活用実践（教師なし学習）を取り上げ、実務を交えながら学習し、後半の課題レポートに取り組む。</p> | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 到達目標を達成するため、授業ごとの出席レポート（理解度・感想・質問および授業の要約）、前半の課題レポート、後半の課題レポートを課す。評価基準としては、前半の課題レポート45%、後半の課題レポート45%、受講態度10%（減点方式）として総合評価する。出席レポートは、採点はしないが、出席の条件とする。なお、本科目では、定期試験および再試験は実施しないので注意すること。 | | | | | | |

| | | | |
|-----------------|---|---------|---|
| ループリック評価 | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 出席レポート、課題レポートについては、授業内またはTeamsのチャットでフィードバックする。 | | |
| 履修条件・注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、Teamsによるオンライン授業である。 ・受講者自身のパソコンで受講すること。 ・大学の教室でオンライン授業を受講する場合は、イヤホンまたはヘッドホンを必ず使用すること（パソコンから出る音（主に教員の声）の反響防止のため） ・「数理・データサイエンス・AI基礎」を履修していることが望ましいが、必須ではない。 ・データサイエンスに関心のある学生が広く受講することを望む。 ・毎回、授業資料をユニバーサル・パスポートおよびTeamsへアップロードするので、各自印刷して授業に臨むこと。 ・出席は、Teamsへの入退場時刻および出席レポートの提出で認定する。 ・毎回、オンライン授業の中で演習や質問をするので、主体的な態度で授業に臨むこと。 | | |
| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | 本科目では、企業（メーカー）の情報部門で中央コンピュータの運用管理、および銀行・行政・企業等のシステム開発の実務経験を持つ教員が、学術研究の経験と合わせて、実践的に役立つ授業を実施する。 |
| 事前学習・事後学習とその時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、授業資料を予習・復習しておくこと。予習と復習で2時間程度を要する。 ・出席レポート、課題レポートは提出期限に間に合うように、授業時間外でも取り組むこと。 | | |
| オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> ・Teamsのチャットで受け付ける。 ・授業に関する質問、相談、意見があれば、遠慮なくチャットへ書き込んでほしい。 | | |
| 授業計画 | | 担当者 | |
| 第1回 | ガイダンス、データとは何か、データサイエンスと因果推論 | 吉長 裕司 | |
| 第2回 | 1変量の要約（平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値） | 吉長 裕司 | |
| 第3回 | 1変量の分布（度数分布表、ヒストグラム、分散、標準偏差） | 吉長 裕司 | |
| 第4回 | 1変量の分布（変動係数、標準化、偏差値） | 吉長 裕司 | |
| 第5回 | 2変数の関係（散布図、相関係数） | 吉長 裕司 | |
| 第6回 | 2変数の関係（単回帰分析、時系列分析、複合グラフ） | 吉長 裕司 | |
| 第7回 | 第1回～第6回の授業の総括 前半の課題レポート作成 | 吉長 裕司 | |
| 第8回 | データ構造とソフトウェア（ソフトウェアとは） | 吉長 裕司 | |
| 第9回 | データ構造とソフトウェア（データ構造） | 吉長 裕司 | |
| 第10回 | データ構造とソフトウェア（データ処理、アルゴリズム） | 吉長 裕司 | |
| 第11回 | データ分析をする前に（データ収集、加工、クリーニング） | 吉長 裕司 | |
| 第12回 | データ分析（概論） | 吉長 裕司 | |
| 第13回 | データ分析（教師あり学習） | 吉長 裕司 | |
| 第14回 | データ分析（教師なし学習） | 吉長 裕司 | |
| 第15回 | 第8回～第14回の授業の総括 後半の課題レポート作成 | 吉長 裕司 | |
| 第16回 | | | |
| 教科書 | | | |
| 教・書籍名 | 学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～ | 教・出版社名1 | 富士通FOM出版 |
| 教・著者名1 | 教科書1： 第1講～第7講まで https://www.fom.fujitsu.com/goods/education/fpt2013.html 型番 FPT2013 B5判 191ページ 発行日2021年2月15日 | 教・ISBN1 | 978-4-86510-446-2 |
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名2 | 技術評論社 |
| 教・著者名2 | 岡嶋裕史・吉田雅裕 教科書2： 型番 AI-LIT-001 B5判 191ページ 発行日2021年2月15日 | 教・ISBN2 | 978-4-297-12038-2 |

| | | | |
|---|--|----------------|--|
| <p>第8講～第15講まで</p> <p>https://gihyo.jp/book/2021/978-4-297-12038-2</p> <p>B5判 240ページ 2021年6月24日紙版発売</p> | | | |
| <p>参考書</p> | | | |
| <p>参・書籍名</p> | | <p>参・出版社名1</p> | |
| <p>参・著者名</p> | | <p>参・ISBN1</p> | |
| <p>参・書籍名</p> | | <p>参・出版社名2</p> | |
| <p>参・著者名2</p> | | <p>参・ISBN2</p> | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|-----------|-----------------------|-------------|------------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI応用 | | | 担当者 | 吉長 裕司、林 将也 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 農学 地域創成2年／ 2022年度 吉備国際大学 農学 醸造2年／2023年度 吉備 国際大学 農学 海洋水産2年 | | | ナンバリング | GE-AI-2-011 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 2年 | 開講期 | 2023年度春学期 | | 曜日・時限 | 水曜2限 | |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3.主体的な学びと 論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケー ション・表現力 | |
| DP5. グローバルな 視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | 4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう  | | | | | | |
| 到達目標 | <p>本科目の開講の背景は次の通りである。政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒／年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能なモデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本科目はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。</p> <p>本科目の到達目標は、(1) 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること、(2) 学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること、である。</p> <p>（出典：2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～」）</p> | | | | | | |
| 授業概要 | <p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、本科目では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を学ぶ。</p> <p>第1回～第7回の授業では、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの「2. データリテラシー」（統計）の中から、2-1) データを読む、2-2) データを説明する、を取り上げ、実データを分析しながら学習し、前半の課題レポートに取り組む。</p> <p>第8回～第15回の授業では、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの「4. オプション」の中から、4-3) データ構造とプログラミング基礎、4-7) データハンドリング、4-8) データ活用実践（教師あり学習）、4-9) データ活用実践（教師なし学習）を取り上げ、実務を交えながら学習し、後半の課題レポートに取り組む。</p> | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 到達目標を達成するため、授業ごとの出席レポート（理解度・感想・質問および授業の要約）、前半の課題レポート、後半の課題レポートを課す。評価基準としては、前半の課題レポート45%、後半の課題レポート45%、受講態度10%（減点方式）として総合評価する。出席レポートは、採点はしないが、出席の条件とする。なお、本科目では、定期試験および再試験は実施しないので注意すること。 | | | | | | |
| ルーブリック評価 | | | | | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 出席レポート、課題レポートについては、授業内またはTeamsのチャットでフィードバックする。 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、Teamsによるオンライン授業である。 ・受講者自身のパソコンで受講すること。 | | | | | | |

| 履修条件・注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> 大学の教室でオンライン授業を受講する場合は、イヤホンまたはヘッドホンを必ず使用すること（パソコンから出る音（主に教員の声）の反響防止のため） 「数理・データサイエンス・AI基礎」を履修していることが望ましいが、必須ではない。 データサイエンスに関心のある学生が広く受講することを望む。 毎回、授業資料をユニバーサル・パスポートおよびTeamsへアップロードするので、各自印刷して授業に臨むこと。 出席は、Teamsへの入退場時刻および出席レポートの提出で認定する。 毎回、オンライン授業の中で演習や質問をするので、主体的な態度で授業に臨むこと。 | | |
|----------------|---|------------|---|
| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | 本科目では、企業（メーカー）の情報部門で中央コンピュータの運用管理、および銀行・行政・企業等のシステム開発の実務経験を持つ教員が、学術研究の経験と合わせて、実践的に役立つ授業を実施する。 |
| 事前学習・事後学習とその時間 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書、授業資料を予習・復習しておくこと。予習と復習で2時間程度を要する。 出席レポート、課題レポートは提出期限に間に合うように、授業時間外でも取り組むこと。 | | |
| オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> Teamsのチャットで受け付ける。 授業に関する質問、相談、意見があれば、遠慮なくチャットへ書き込んでほしい。 | | |
| 授業計画 | | 担当者 | |
| 第1回 | ガイダンス、データとは何か、データサイエンスと因果推論 | 吉長 裕司、林 将也 | |
| 第2回 | 1変量の要約（平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値） | 吉長 裕司 | |
| 第3回 | 1変量の分布（度数分布表、ヒストグラム、分散、標準偏差） | 吉長 裕司 | |
| 第4回 | 1変量の分布（変動係数、標準化、偏差値） | 吉長 裕司 | |
| 第5回 | 2変量の関係（散布図、相関係数） | 吉長 裕司 | |
| 第6回 | 2変量の関係（単回帰分析、時系列分析、複合グラフ） | 吉長 裕司 | |
| 第7回 | 第1回～第6回の授業の総括 前半の課題レポート作成 | 吉長 裕司 | |
| 第8回 | データ構造とソフトウェア（ソフトウェアとは） | 吉長 裕司 | |
| 第9回 | データ構造とソフトウェア（データ構造） | 吉長 裕司 | |
| 第10回 | データ構造とソフトウェア（データ処理、アルゴリズム） | 吉長 裕司 | |
| 第11回 | データ分析をする前に（データ収集、加工、クリーニング） | 吉長 裕司 | |
| 第12回 | データ分析（概論） | 吉長 裕司 | |
| 第13回 | データ分析（教師あり学習） | 吉長 裕司 | |
| 第14回 | データ分析（教師なし学習） | 吉長 裕司 | |
| 第15回 | 第8回～第14回の授業の総括 後半の課題レポート作成 | 吉長 裕司 | |
| 第16回 | | | |
| 教科書 | | | |
| 教・書籍名 | 学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～ | 教・出版社名1 | 富士通FOM出版 |
| 教・著者名1 | 教科書1： 第1講～第7講まで https://www.fom.fujitsu.com/goods/education/fpt2013.html 型番 FPT2013 B5判 191ページ 発行日2021年2月15日 | 教・ISBN1 | 978-4-86510-446-2 |
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名2 | 技術評論社 |
| 教・著者名2 | 岡嶋裕史・吉田雅裕 教科書2： 第8講～第15講まで https://gihyo.jp/book/2021/978-4-297-12038-2 B5判 240ページ 2021年6月24日紙版発売 | 教・ISBN2 | 978-4-297-12038-2 |
| 参考書 | | | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名1 | |

| | | | |
|--------|--|---------|--|
| 参・著者名 | | 参・ISBN1 | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名2 | |
| 参・著者名2 | | 参・ISBN2 | |

| | | | | | | | |
|----------------------|---|------------|-----------|--------------------|-------------|--------------------|-------|
| 授業科目名 | 数理・データサイエンス・AI応用 | | | 担当者 | 吉長 裕司、佐藤 匡 | | |
| 配当学科・研究科 | 2022～2023年度 吉備国際大学 外国語 外国2年 | | | ナンバリング | GE-AI-2-011 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30 | 授業形態 | 講義と演習 |
| 年次 | 2年 | 開講期 | 2023年度春学期 | | | 曜日・時限 | 水曜2限 |
| ディプロマポリシー対応項目 | | | | | | | |
| DP1. 知識・技能 | ○ | DP2. 情報の活用 | ◎ | DP3. 主体的な学びと論理的な思考 | △ | DP4. コミュニケーション・表現力 | |
| DP5. グローバルな視野と地域貢献活動 | | DP6. 課題解決力 | ○ | DP7. 自己効力感 | | DP8. 学科項目 | |
| SDGs 関連項目 | 4. 質の高い教育をみんなに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう  | | | | | | |
| 到達目標 | <p>本科目の開講の背景は次の通りである。政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能なモデルカリキュラムが数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本科目はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。</p> <p>本科目の到達目標は、(1) 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること、(2) 学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること、である。</p> <p>（出典：2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～」）</p> | | | | | | |
| 授業概要 | <p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、本科目では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を学ぶ。</p> <p>第1回～第7回の授業では、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの「2. データリテラシー」（統計）の中から、2-1) データを読む、2-2) データを説明する、を取り上げ、実データを分析しながら学習し、前半の課題レポートに取り組む。</p> <p>第8回～第15回の授業では、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムの「4. オプション」の中から、4-3) データ構造とプログラミング基礎、4-7) データハンドリング、4-8) データ活用実践（教師あり学習）、4-9) データ活用実践（教師なし学習）を取り上げ、実務を交えながら学習し、後半の課題レポートに取り組む。</p> | | | | | | |
| アクティブラーニングの内容 | PBL/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等） | | | | | | |
| 評価方法と割合 | 到達目標を達成するため、授業ごとの出席レポート（理解度・感想・質問および授業の要約）、前半の課題レポート、後半の課題レポートを課す。評価基準としては、前半の課題レポート45%、後半の課題レポート45%、受講態度10%（減点方式）として総合評価する。出席レポートは、採点はしないが、出席の条件とする。なお、本科目では、定期試験および再試験は実施しないので注意すること。 | | | | | | |
| ルーブリック評価 | | | | | | | |
| 課題や試験のフィードバック方法 | 出席レポート、課題レポートについては、授業内またはTeamsのチャットでフィードバックする。 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、Teamsによるオンライン授業である。 ・受講者自身のパソコンで受講すること。 ・大学の教室でオンライン授業を受講する場合は、イヤホンまたはヘッドホンを必ず使用すること（パソコンから出る音（主に教員の声）の反響防止のため） | | | | | | |

| 履修条件・注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・「数理・データサイエンス・AI基礎」を履修していることが望ましいが、必須ではない。 ・データサイエンスに関心のある学生が広く受講することを望む。 ・毎回、授業資料をユニバーサル・パスポートおよびTeamsへアップロードするので、各自印刷して授業に臨むこと。 ・出席は、Teamsへの入退場時刻および出席レポートの提出で認定する。 ・毎回、オンライン授業の中で演習や質問をするので、主体的な態度で授業に臨むこと。 | | |
|----------------|--|------------------|---|
| 実務経験のある教員 | 該当する | 内容 | 本科目では、企業（メーカー）の情報部門で中央コンピュータの運用管理、および銀行・行政・企業等のシステム開発の実務経験を持つ教員が、学術研究の経験と合わせて、実践的に役立つ授業を実施する。 |
| 事前学習・事後学習とその時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、授業資料を予習・復習しておくこと。予習と復習で2時間程度を要する。 ・出席レポート、課題レポートは提出期限に間に合うように、授業時間外でも取り組むこと。 | | |
| オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> ・Teamsのチャットで受け付ける。 ・授業に関する質問、相談、意見があれば、遠慮なくチャットへ書き込んでほしい。 | | |
| 授業計画 | | 担当者 | |
| 第1回 | ガイダンス、データとは何か、データサイエンスと因果推論 | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第2回 | 1変量の要約（平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第3回 | 1変量の分布（度数分布表、ヒストグラム、分散、標準偏差） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第4回 | 1変量の分布（変動係数、標準化、偏差値） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第5回 | 2変数の関係（散布図、相関係数） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第6回 | 2変数の関係（単回帰分析、時系列分析、複合グラフ） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第7回 | 第1回～第6回の授業の総括 前半の課題レポート作成 | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第8回 | データ構造とソフトウェア（ソフトウェアとは） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第9回 | データ構造とソフトウェア（データ構造） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第10回 | データ構造とソフトウェア（データ処理、アルゴリズム） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第11回 | データ分析をする前に（データ収集、加工、クリーニング） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第12回 | データ分析（概論） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第13回 | データ分析（教師あり学習） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第14回 | データ分析（教師なし学習） | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第15回 | 第8回～第14回の授業の総括 後半の課題レポート作成 | 吉長 裕司 補佐 佐藤 匡 | |
| 第16回 | | | |
| 教科書 | | | |
| 教・書籍名 | 学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～ | 教・出版社名1 | 富士通FOM出版 |
| 教・著者名1 | 教科書1： 第1講～第7講まで https://www.fom.fujitsu.com/goods/education/fpt2013.html | 教・ISBN1 | 978-4-86510-446-2 |

| | | | |
|--------|--|---------|-------------------|
| | 型番 FPT2013 B5判 191ページ 発行日2021年2月15日 | | |
| 教・書籍名 | はじめてのAIリテラシー | 教・出版社名2 | 技術評論社 |
| 教・著者名2 | 岡嶋裕史・吉田雅裕 教科書2： 第8講～第15講まで https://gihyo.jp/book/2021/978-4-297-12038-2 B5判 240ページ 2021年6月24日紙版発売 | 教・ISBN2 | 978-4-297-12038-2 |
| 参考書 | | | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名1 | |
| 参・著者名 | | 参・ISBN1 | |
| 参・書籍名 | | 参・出版社名2 | |
| 参・著者名2 | | 参・ISBN2 | |

教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)

※学科のディプロマポリシーを記載

| | | | |
|----------|-----|-----------------|--|
| 自ら学ぶ力 | DP1 | 知識・技能 | 豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。 |
| | DP2 | 情報の活用 | 目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。 |
| | DP3 | 主体的な学びと論理的な思考 | 科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。 |
| 生きぬく力 | DP4 | コミュニケーション・表現力 | 多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。 |
| | DP5 | グローバルな視野と地域貢献活動 | グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。 |
| | DP6 | 課題解決力 | 困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。 |
| 信じて行動する力 | DP7 | 自己効力感 | 知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。 |
| | | | |

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

| 授業科目 | ◆は必修 | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
|----------|-----------------|-----|------|-------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 人間力育成科目 | ◆ きびこく学 | 1 | 1 | 春 | 順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。 | ◎ | △ | ◎ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | ◆ SDGs概論 | 1 | 1 | 春 | 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。 | △ | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| | ◆ グローバルスタディーズ入門 | 2 | 1 | 春または秋 | 社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。 | ○ | | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| | ◆ 課題解決演習 | 2 | 1 | 秋 | これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。 | | △ | △ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| キャリア教育科目 | ◆ キャリアデザインⅠ | 2 | 1 | 春 | この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。 | | | ◎ | ○ | | △ | ◎ | |
| | ◆ キャリアデザインⅡ | 1 | 2 | 春 | 自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の記入、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。 | | △ | ◎ | ○ | | △ | ◎ | |
| | ◆ キャリア実践Ⅰ | 1 | 3 | 春 | 社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。 具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動に必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | |
| | キャリア実践Ⅱ | 1 | 3 | 春 | 「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
|---------------|------------------|-----|------|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 数理・情報活用科目 | ◆ 情報活用 | 2 | 1 | 春 | 高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。 | ○ | ◎ | △ | | | | | |
| | 数理・データサイエンス・AI基礎 | 2 | 1 | 秋 | 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。 | ○ | ◎ | △ | | | ○ | | |
| | 数理・データサイエンス・AI応用 | 2 | 2 | 春 | 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。 | ○ | ◎ | △ | | | ○ | | |
| 言語教育科目 外国語 | ◆ 英語基礎 I | 2 | 1 | 春 | 高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 I」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | ◆ 英語基礎 II | 2 | 1 | 秋 | 「英語基礎 I」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 II」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | ◆ アクティブ英語 I | 2 | 1 | 春 | ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 I」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | |
| | アクティブ英語 II | 2 | 1 | 秋 | 「アクティブ英語 I」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 II」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | |
| | レベルアップ英語 I | 2 | 2 | 春 | 海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | レベルアップ英語 II | 2 | 2 | 秋 | 「レベルアップ英語 I」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 中国語と中国文化 I | 2 | 1 | 春 | 中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | ◎ | | |
| | 中国語と中国文化 II | 2 | 1 | 秋 | 「中国語 I」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | ◎ | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|------------------------|-----------------|-----|------|-----|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 外国語 | フランス語とフランス文化 I | 2 | 1 | 春 | フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| | フランス語とフランス文化 II | 2 | 1 | 秋 | 「フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| | ドイツ語とドイツ文化 I | 2 | 1 | 春 | ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| | ドイツ語とドイツ文化 II | 2 | 1 | 秋 | 「ドイツ語 I」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| 言語教育科目 日本語(留学生専用科目) | ◇ 日本語 I A(文法) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I A(読解) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I A(聴解) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I B(文法) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I B(読解) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I B(聴解) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | * 日本語 II A(文法) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|-----------|--------------|-------------|------|-----|----------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 言語教育科目 | 日本語(留学生専用科目) | * 日本語ⅡA(読解) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡA(聴解) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡB(文法) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡB(読解) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡB(聴解) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| 基礎教育科目 | 社会の理解 | 日本国憲法 | 2 | 1 | 春または秋 | 日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 | ◎ | | ◎ | ○ | | |
| | | 経済学 | 2 | 1 | 春または秋 | 私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | |
| | | 社会学 | 2 | 1 | 春または秋 | 社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。 | ◎ | △ | ◎ | △ | △ | |
| 人間形成 | | 哲学 | 2 | 1 | 春または秋 | 哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西歐世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。 | ◎ | | ◎ | △ | | |
| | | 心理学 | 2 | 1 | 春または秋 | 心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。 | ◎ | | ◎ | △ | | △ |
| | | 多様性の理解 | 2 | 1 | 春または秋 | 異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む) | | | | ◎ | ◎ | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|-----------|----------|-----|------|---------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人間形成 | 文章力の基礎 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。 | ◎ | | ◎ | ○ | | | |
| | 美術の見方 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。 | ◎ | | ◎ | ○ | | | |
| | 生涯スポーツ論 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | 生涯スポーツ実習 | 1 | 1 | 春 または 秋 | 様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。 | △ | | | ◎ | | | |
| 自然科学 | 数的理解 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。 | ◎ | ◎ | ◎ | | | △ | |
| | 化学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。 | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 生物学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。 | ◎ | | ◎ | | △ | | |
| | 環境科学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見の問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。 | ◎ | | ○ | | △ | △ | |

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|---|---|
| ◎ | 35 | 4 | 39 | 18 | 12 | 4 | 6 |
| ○ | 3 | 2 | 2 | 8 | 1 | 0 | 0 |
| △ | 2 | 16 | 4 | 4 | 3 | 4 | 1 |
| 合計 | 40 | 22 | 45 | 30 | 16 | 8 | 7 |

| 教養科目 | | 農学部 | | | 2023年度 カリキュラムマップ | | | | | | | | |
|---|-----------------|-----------------|--|-------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー) | | | | | | | | | | | | | |
| ※学科のディプロマポリシーを記載 | | | | | | | | | | | | | |
| 自ら学ぶ力 | DP1 | 知識・技能 | 豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | DP2 | 情報の活用 | 目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | DP3 | 主体的な学びと論理的な思考 | 科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。 | | | | | | | | | | |
| 生きぬく力 | DP4 | コミュニケーション・表現力 | 多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | DP5 | グローバルな視野と地域貢献活動 | グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。 | | | | | | | | | | |
| | DP6 | 課題解決力 | 困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 信じて行動する力 | DP7 | 自己効力感 | 知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| ◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%) | | | | | | | | | | | | | |
| 授業科目 | ◆は必修 | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
| 人間力育成科目 | ◆ きびこく学 | 1 | 1 | 春 | 順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。 | ◎ | △ | ◎ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | ◆ SDGs概論 | 1 | 1 | 春 | 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。 | △ | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| | ◆ グローバルスタディーズ入門 | 2 | 1 | 春または秋 | 社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。 | ○ | | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| | ◆ 課題解決演習 | 2 | 1 | 秋 | これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。 | | △ | △ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| キャリア教育科目 | ◆ キャリアデザインⅠ | 2 | 1 | 春 | この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。 | | | ◎ | ○ | | △ | ◎ | |
| | ◆ キャリアデザインⅡ | 1 | 2 | 春 | 自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。 | | △ | ◎ | ○ | | △ | ◎ | |
| | ◆ キャリア実践Ⅰ | 1 | 3 | 春 | 社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。 具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動に必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面の自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | |
| | キャリア実践Ⅱ | 1 | 3 | 春 | 「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
|---|------------------|-----|------|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 数 理 ・ 情 報 活 用 科 目 | ◆ 情報活用 | 2 | 1 | 春 | 高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。 | ○ | ◎ | △ | | | | | |
| | 数理・データサイエンス・AI基礎 | 2 | 1 | 秋 | 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。 | ○ | ◎ | △ | | | ○ | | |
| | 数理・データサイエンス・AI応用 | 2 | 2 | 春 | 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。 | ○ | ◎ | △ | | | ○ | | |
| 言 語 教 育 科 目 外 国 語 | ◆ 英語基礎 I | 2 | 1 | 春 | 高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 I」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | ◆ 英語基礎 II | 2 | 1 | 秋 | 「英語基礎 I」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 II」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | ◆ アクティブ英語 I | 2 | 1 | 春 | ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 I」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | |
| | アクティブ英語 II | 2 | 1 | 秋 | 「アクティブ英語 I」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 II」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。 | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | |
| | レベルアップ英語 I | 2 | 2 | 春 | 海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | レベルアップ英語 II | 2 | 2 | 秋 | 「レベルアップ英語 I」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 中国語と中国文化 I | 2 | 1 | 春 | 中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | ◎ | | |
| | 中国語と中国文化 II | 2 | 1 | 秋 | 「中国語 I」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | ◎ | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|------------------------|-----------------|-----|------|-----|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 外国語 | フランス語とフランス文化 I | 2 | 1 | 春 | フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| | フランス語とフランス文化 II | 2 | 1 | 秋 | 「フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| | ドイツ語とドイツ文化 I | 2 | 1 | 春 | ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| | ドイツ語とドイツ文化 II | 2 | 1 | 秋 | 「ドイツ語 I」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| 言語教育科目 日本語(留学生専用科目) | ◇ 日本語 I A(文法) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I A(読解) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I A(聴解) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I B(文法) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I B(読解) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語 I B(聴解) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | * 日本語 II A(文法) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|-----------|--------------|-------------|------|-----|----------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 言語教育科目 | 日本語(留学生専用科目) | * 日本語ⅡA(読解) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡA(聴解) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡB(文法) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡB(読解) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| | | * 日本語ⅡB(聴解) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | |
| 基礎教育科目 | 社会の理解 | 日本国憲法 | 2 | 1 | 春または秋 | 日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 | ◎ | | ◎ | ○ | | |
| | | 経済学 | 2 | 1 | 春または秋 | 私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | |
| | | 社会学 | 2 | 1 | 春または秋 | 社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。 | ◎ | △ | ◎ | △ | △ | |
| 人間形成 | | 哲学 | 2 | 1 | 春または秋 | 哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西歐世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。 | ◎ | | ◎ | △ | | |
| | | 心理学 | 2 | 1 | 春または秋 | 心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。 | ◎ | | ◎ | △ | | △ |
| | | 多様性の理解 | 2 | 1 | 春または秋 | 異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む) | | | | ◎ | ◎ | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|-----------|----------|-----|------|---------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人間形成 | 文章力の基礎 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。 | ◎ | | ◎ | ○ | | | |
| | 生涯スポーツ論 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | 生涯スポーツ実習 | 1 | 1 | 春 または 秋 | 様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。 | △ | | | ◎ | | | |
| 基礎教育科目 | 数的理解 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。 | ◎ | ◎ | ◎ | | | △ | |
| | 化学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。 | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 生物学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。 | ◎ | | ◎ | | △ | | |
| | 環境科学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見の問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。 | ◎ | | ○ | | △ | △ | |

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|---|---|
| ◎ | 34 | 4 | 38 | 18 | 12 | 4 | 6 |
| ○ | 3 | 2 | 2 | 7 | 1 | 0 | 0 |
| △ | 2 | 16 | 4 | 4 | 3 | 4 | 1 |
| 合計 | 39 | 22 | 44 | 29 | 16 | 8 | 7 |

| 教養科目 | | 外国語学部 | | | 2023年度 カリキュラムマップ | | | | | | | | |
|---|-----------------|-----------------|--|-------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー) | | | | | | | | | | | | | |
| ※学科のディプロマポリシーを記載 | | | | | | | | | | | | | |
| 自ら学ぶ力 | DP1 | 知識・技能 | 豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | DP2 | 情報の活用 | 目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | DP3 | 主体的な学びと論理的な思考 | 科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。 | | | | | | | | | | |
| 生きぬく力 | DP4 | コミュニケーション・表現力 | 多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | DP5 | グローバルな視野と地域貢献活動 | グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。 | | | | | | | | | | |
| | DP6 | 課題解決力 | 困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 信じて行動する力 | DP7 | 自己効力感 | 知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| ◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%) | | | | | | | | | | | | | |
| 授業科目 | ◆は必修 | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
| 人間力育成科目 | ◆ きびこく学 | 1 | 1 | 春 | 順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。 | ◎ | △ | ◎ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | ◆ SDGs概論 | 1 | 1 | 春 | 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。 | △ | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| | ◆ グローバルスタディーズ入門 | 2 | 1 | 春または秋 | 社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。 | ○ | | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| | ◆ 課題解決演習 | 2 | 1 | 秋 | これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。 | | △ | △ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| キャリア教育科目 | ◆ キャリアデザインⅠ | 2 | 1 | 春 | この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。 | | | ◎ | ○ | | △ | ◎ | |
| | ◆ キャリアデザインⅡ | 1 | 2 | 春 | 自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。 | | △ | ◎ | ○ | | △ | ◎ | |
| | ◆ キャリア実践Ⅰ | 1 | 3 | 春 | 社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。 具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動に必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面の自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | |
| | キャリア実践Ⅱ | 1 | 3 | 春 | 「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|--------------|------------------|--------|------|-----|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 数理・情報活用科目 | ◆ 情報活用 | 2 | 1 | 春 | 高校までに習得したコンピューテリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。 | ○ | ◎ | △ | | | | |
| | 数理・データサイエンス・AI基礎 | 2 | 1 | 秋 | 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。 | ○ | ◎ | △ | | | ○ | |
| | 数理・データサイエンス・AI応用 | 2 | 2 | 春 | 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。 | ○ | ◎ | △ | | | ○ | |
| 言語教育科目 | 外国語 | 中国語Ⅰ | 2 | 1 | 春 | 中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | |
| | | 中国語Ⅱ | 2 | 1 | 秋 | 「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | |
| | | フランス語Ⅰ | 2 | 1 | 春 | フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | |
| | | フランス語Ⅱ | 2 | 1 | 秋 | 「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | |
| | | ドイツ語Ⅰ | 2 | 1 | 春 | ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | |
| | | ドイツ語Ⅱ | 2 | 1 | 秋 | 「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | ◎ | |
| 日本語(留学生専用科目) | ◇ 日本語ⅠA(文法) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | ◇ 日本語ⅠA(読解) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
|-----------|--------------|-------------|------|-----|----------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 言語教育科目 | 日本語(留学生専用科目) | ◇ 日本語ⅠA(聴解) | 2 | 1 | 春 | 日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | ◇ 日本語ⅠB(文法) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | ◇ 日本語ⅠB(読解) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | ◇ 日本語ⅠB(聴解) | 2 | 1 | 秋 | 日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | * 日本語ⅡA(文法) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | * 日本語ⅡA(読解) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | * 日本語ⅡA(聴解) | 2 | 2 | 春 | 日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | * 日本語ⅡB(文法) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| | | * 日本語ⅡB(読解) | 2 | 2 | 秋 | 日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。 | ◎ | △ | ◎ | ◎ | | | |
| 基礎教育科目 | 社会の理解 | ◇ 日本国憲法 | 2 | 1 | 春または秋 | 日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 | ◎ | | ◎ | ○ | | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|-----------|----------|-----|------|---------------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 社会の理解 | 経済学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。 | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 社会学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。 | ◎ | △ | ◎ | △ | △ | | |
| 人間形成 | 哲学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。 | ◎ | | ◎ | △ | | | |
| | 心理学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。 | ◎ | | ◎ | △ | | | △ |
| | 多様性の理解 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む) | | | | ◎ | ◎ | | |
| | 文章力の基礎 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。 | ◎ | | ◎ | ○ | | | |
| | 生涯スポーツ論 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通じたスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | 生涯スポーツ実習 | 1 | 1 | 春 または 秋 | 様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。 | △ | | | ◎ | | | |
| | 数的理解 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | △ |
| 自然科学 | 化学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。 | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 生物学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。 | ◎ | | ◎ | | △ | | |

| 授業科目 ◆は必修 | | 単位数 | 配当年次 | 履修期 | 授業概要(素案) | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | |
|-----------|------|------|------|-----|---------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 基礎教育科目 | 自然科学 | 環境科学 | 2 | 1 | 春 または 秋 | 現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見の問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。 | ◎ | | ○ | | △ | △ | |

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|---|---|
| ◎ | 30 | 4 | 32 | 14 | 10 | 4 | 6 |
| ○ | 3 | 2 | 2 | 7 | 1 | 0 | 0 |
| △ | 2 | 16 | 4 | 4 | 3 | 4 | 1 |
| 合計 | 35 | 22 | 38 | 25 | 14 | 8 | 7 |

吉備国際大学委員会規程

制定年月日：平成2年4月1日
最終改訂年月日：令和4年4月1日

第1章 通則

(目的)

第1条 この規程は、学長の諮問に応ずる機関として設置された各種委員会の適正なる運営が図られることを目的とする。

(委員会の種類)

第2条 本学に次の委員会を置く。

教育

1. 教育課程

- (1) 全学教養教育委員会
 - 1) 基礎教養教育部会
 - 2) キャリア教育部会
 - 3) 情報教育部会
 - 4) 外国語教育部会
 - 5) 日本語教育部会

- (2) 人権教育推進委員会

2. 教育実施

- (1) FD・SD推進委員会

3. 教育改善

- (1) 教学マネジメント推進委員会
 - 1) 学修成果可視化実行部会
 - 2) 学修ポートフォリオ・ルーブリック評価導入推進部会
 - 3) 教育向上部会

研究

1. 研究

- (1) 研究部門自己点検・自己評価委員会

2. 審査機関

- (1) 倫理審査委員会
- (2) 研究不正行為防止対策委員会
- (3) 動物実験委員会
- (4) 組換えDNA実験安全委員会
- (5) 知財委員会
- (6) 利益相反審査委員会
- (7) 海外出張・研修委員会

社会貢献

- (1) 公開講座委員会
- (2) 産学官連携推進委員会

学生支援

- (1) 学生満足度向上委員会
 - 1) 学生生活向上部会

- 2) 障害学生支援部会
- (2) 留学生サポート委員会
- (3) キャリアサポート委員会

管理運営

- (1) 予算委員会
- (2) 広報委員会
- (3) 自己点検・自己評価委員会
- (4) I R推進委員会
- (5) 衛生委員会
- (6) キャンパス・ハラスメント防止委員会
- (7) 環境管理委員会
- (8) 環境マネジメント委員会
- (9) 図書館運営・研究紀要編集委員会
- (10) 学術機関リポジトリ運営委員会

2 前項のほか必要と認められる場合、その他の委員会を置くことができる。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、学長から指名された委員長及び学長から委嘱された教職員若干名の委員をもって構成する。

2 学長及び事務局長は、原則として委員会に出席する。

3 委員会には、必要に応じてその他の教職員を参加させることができる。

(委員会の職務)

第4条 委員会は、学長の諮問に答え、また意見を具申することができる。

第5条 委員長は、次の場合に委員会を招集する。

- (1) 学長の諮問があった場合
- (2) 委員長が必要と認めた場合
- (3) 委員の3分の1の要請があった場合

(委員会の成立条件)

第6条 委員会は、構成委員の過半数の出席をもって成立する。

(委員長の職務)

第7条 委員長は、委員会の議長となり、会を運営し、その結果を学長に報告しなければならない。

(委員の任期)

第8条 委員会の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員会の庶務)

第9条 委員会の庶務は、事務局関係課が、これに当たり、会議録を作成し、保管するものとする。

第2章 各委員会の協議事項

第10条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

教育

1. 教育課程

(1) 全学教養教育委員会

1) 基礎教養教育部会

ア 基礎教養教育に関する事項

イ 事務局関係課は教務課とする。

2) キャリア教育部会

ウ 教養教育（キャリア教育）に関する事項

エ 事務局関係課は教務課とする。

3) 情報教育部会

オ 教養教育（情報教育）に関する事項

カ 事務局関係課は教務課とする。

4) 外国語教育部会

キ 教養教育（外国語）に関する事項

ク 事務局関係課は教務課とする。

5) 日本語教育部会

ケ 教養教育（日本語教育）に関する事項

コ 事務局関係課は教務課とする。

(2) 人権教育推進委員会

ア 人権教育に関する事項

イ その他人権教育に関する一般的事項

ウ 事務局関係課は教務課とする。

2. 教育実施

(1) FD・SD推進委員会

ア FD・SDに関する事項

イ 事務局関係課は庶務課とする。

3. 教育改善

(1) 教学マネジメント推進委員会

1) 学修成果可視化実行部会

ア 学修成果の可視化に関する事項

イ 事務局関係課は教育イノベーション課とする。

2) 学修ポートフォリオ・ルーブリック評価導入推進部会

ウ 学修ポートフォリオに関する事項

エ ルーブリック評価に関する事項

オ 事務局関係課は教育イノベーション課とする。

3) 教育向上部会

カ 学生の教育向上に関する事項

キ 事務局関係課は教務課とする。

研究

1. 研究

(1) 研究部門自己点検・自己評価委員会

ア 研究成果の発表状況に関する事項

イ 共同研究の実施状況に関する事項

ウ 研究費の財源確保状況（学外からの資金導入状況、科学研究費補助金の採択状況）に関する事

項

エ 研究部門自己点検・自己評価委員会総会の運営に関する事項

オ その他の研究に関する事項

カ 事務局関係課は庶務課とする。

2. 審査機関

(1) 倫理審査委員会

（別に定める）

- (2) 研究不正行為防止対策委員会
(別に定める)
- (3) 動物実験委員会
(別に定める)
- (4) 組換えDNA実験安全委員会
(別に定める)
- (5) 知財委員会
(別に定める)
- (6) 利益相反審査委員会
(別に定める)
- (7) 海外出張・研修委員会
 - ア 教員の海外留学に関する事項
 - イ 海外における研究及び研修に関する事項
 - ウ 事務局関係課は庶務課とする。

社会貢献

- (1) 公開講座委員会
 - ア 公開講座開催に関する事項
 - イ その他公開講座に関する事項
 - ウ 事務局関係課は庶務課とする。
- (2) 産学官連携推進委員会
 - ア 企業との連携に関する事項
 - イ 国・自治体との連携に関する事項
 - ウ 他大学との連携に関する事項
 - エ 大学コンソーシアム岡山に関する事項
 - オ その他産学官連携に関する全ての事項
 - カ 事務局関係課は庶務課とする。

学生支援

- (1) 学生満足度向上委員会
 - 1) 学生生活向上部会
 - ア 学生の生活向上に関する事項
 - イ 事務局関係課は学生課とする。
 - 2) 障害学生支援部会
 - ウ 障害学生の支援に関する事項
 - エ 障害を理由とする差別の解消に関する事項
 - オ 事務局関係課は学生課とする。
- (2) 留学生サポート委員会
 - ア 海外教育交流協定校との学生交流に関する事項
 - イ 留学生の行事と生活に関する事項
 - ウ 日本語スピーチコンテストの運営に関する事項
 - エ 英語スピーチコンテストの運営に関する事項
 - オ 事務局関係課は留学生課とする。
- (3) キャリアサポート委員会
 - ア 就職指導に関する事項

- イ 就職斡旋に関する事項
- ウ 学生の社会的・職業的自立に関する事項
- エ その他就職に関する事項
- オ 事務局関係課はキャリアサポートセンターとする。

管理運営

- (1) 予算委員会
 - ア 教育予算案に関する事項
 - イ その他教育予算に関する事項
 - ウ 事務局関係課は会計課とする。
- (2) 広報委員会
 - ア 広報活動に関する事項
 - イ 懇談会等開催に関する事項
 - ウ その他広報に関する事項
 - エ 事務局関係課は学園入試広報室とする。
- (3) 自己点検・自己評価委員会
(別に定める)
- (4) I R推進委員会
 - ア 情報の収集・管理に関する事項
 - イ 情報の分析・管理に関する事項
 - ウ 情報の公開に関する事項
 - エ I Rの普及・促進に関する事項
 - オ その他委員会に関して必要な事項
 - カ 事務局関係課はI R推進室、教育イノベーション課とする。
- (5) 衛生委員会
(別に定める)
- (6) キャンパス・ハラスメント防止委員会
(別に定める)
- (7) 環境管理委員会
(別に定める)
- (8) 環境マネジメント委員会
(別に定める)
- (9) 図書館運営・研究紀要編集委員会
 - ア 図書館の運営方針に関する事項
 - イ 資料購入の方針及び計画に関する事項
 - ウ 図書館関係規程の制定及び改廃に関する事項
 - エ 「吉備国際大学研究紀要」の編集・発行に関する事項
 - オ その他図書館に関する事項
 - カ 事務局関係課は図書館とする。
- (10) 学術機関リポジトリ運営委員会
(別に定める)

附則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成6年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成7年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成15年7月16日から施行する。

附則

この改正規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成26年6月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成27年8月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成27年10月7日から施行する。

附則

この改正規程は、平成28年3月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この改正規程は、令和3年6月1日から施行する。

附則

この改正規程は、令和4年4月1日から施行する。

吉備国際大学自己点検・自己評価規程

制定年月日:平成8年4月1日
最終改訂年月日:令和4年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、吉備国際大学学則第1条の2及び大学院学則第4条の2の規定に基づき、吉備国際大学（以下「本学」という。）の教育研究及び大学管理運営について自ら点検及び評価を行い、その結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを継続的に行うことにより、教育研究水準の向上を図り、その質を保証することについて必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 自己点検評価を実施するため、自己点検・自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(協議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 自己点検・自己評価方法及び体制に関する事項
- (2) 教育理念及び教育研究活動に関する事項
- (3) その他自己点検・自己評価に関する事項

(点検評価項目)

第4条 本学における点検評価は次の項目について実施するものとする。

- (1) 建学の理念・教育目標の具現化
- (2) 教育の充実
- (3) 研究推進
- (4) 地域連携活動
- (5) 学生支援
- (6) キャリア支援
- (7) 情報教育
- (8) SDGsの取り組み
- (9) 附属図書館運営
- (10) グローバル化・国際交流の推進
- (11) FD・SDの取り組み
- (12) 学生募集の取り組み
- (13) 修学環境の整備（環境保全・人権・安全等への配慮）
- (14) 大学運営管理・財務

(構成)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (2) 事務局長
- (3) 学長から委嘱された教職員
- (4) 学長から委嘱された外部の有識者

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、学長が指名する者をもってこれにあてる。

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故ある場合は、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(招集)

第7条 委員長は次の場合に委員会を招集する。

- (1) 委員長が必要と認めた場合
- (2) 委員の3分の1以上の要請があった場合

(成立要件)

第8条 委員会は構成委員の過半数の出席をもって成立する。

(任期)

第9条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(結果)

第10条 点検評価の結果は、大学事業計画その他次期計画、次期施策に反映させるとともに一部資料を学外に配布し、部外の参考に供する。

(庶務)

第11条 委員会の事務局は庶務課及び教務課とする。

附則

この運営要領は、平成8年4月1日から施行する。

附則

この改正運営要領は、平成22年4月1日から施行する。

附則

この改正運営要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 従前の運営要領は、この規程の施行をもって廃止する。

| | | | |
|----------|---------------------------------|-------|----------|
| 大学等名 | 吉備国際大学 | 申請レベル | リテラシーレベル |
| 教育プログラム名 | 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル） | 申請年度 | 令和 6 年度 |



数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) 概要

概要と目的

数理・データサイエンス・AIの人間中心活用による課題解決の基礎を身に付ける

数理・データサイエンス・AIについて、

1. その必要とされる背景や仕組みを学ぶ。
2. 数理・データサイエンス・AIのELSIや負の側面を学び、よりよい活用を目指せるようになる。
3. 活用して社会の実データ・課題を読み解き、判断できるようになる。

教育目標(身につけられる能力)

数理・データサイエンス・AIの基礎的素養の習得と人間中心の活用

- ・今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを、日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることができるようになる。
- ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになる。

科目の構成と修了要件

●数理・データサイエンス・AI基礎
(1年秋学期)2単位



●数理・データサイエンス・AI応用
(2年春学期)2単位

【上の2科目4単位を取得すること】

実施体制



学習支援体制

- ・学務支援システムUniversalPassportや学内グループウェアMicrosoftTeamsを使用して、学生と教職員が直接コミュニケーション・連絡できる体制の構築
 - 個別的な学習指導
 - 個々の学生からの質問の受け付け
- ・学科教員、情報教育センター、情報システム課および教務課が連携し、上記のサポート体制の機能を維持・向上

推進計画

- ・オリエンテーション等で、本プログラムの目的と意義について説明し、学生自身が目標を持って履修するよう指導する
- ・教育サポートスタッフ(学生TA)を活用し学びやすい環境づくりを行う
- ・令和8年度までに、「数理・データサイエンス・AI基礎」および「数理・データサイエンス・AI応用」を必修科目とすることで、学生全員が履修する体制の整備を目指す